

# 部活動などの活躍

《吹奏楽部》  
第58回東京都中学校吹奏楽コンクール  
B組 銀賞



吹奏楽部の皆さん



《陸上競技部》  
全日本中学校通信陸上競技大会  
団体戦男子1年 1500m 第3位  
第30回東京ジュニア陸上競技大会  
男子1年 1500m 第4位  
〇〇 〇〇くん(1-4)  
第12回渋谷区ジュニア陸上競技会



女子1年 100m 第1位 〇〇 〇〇さん(1-2)  
男子1年 100m 第2位 〇〇 〇〇くん(1-2)  
男子1年 1500m 第3位 〇〇 〇〇くん(1-1)



《バレーボール部女子》

荒川区中学校バレーボール新人シード権大会 第3位

バレーボール部  
女子の皆さん

オリンピック強化選手  
〇〇〇 〇〇さん(3-4)

本校に水泳部や空手部はありませんが、校外のクラブチームで活躍する生徒もいます。

第70回東京都中学校選手権水泳競技大会  
女子400m自由形 第6位

空手選手権出場

〇〇 〇〇くん(1-4)

第32回東京都中学生空手道選手権大会 敢闘賞



## 南千住マイスターのコーナー

「橋場」という名が残ったとも伝えられています。橋場は風流な場所とされ、大名や豪商、有名な料亭などもあったといわれています。特に著名な「三条実美」の別荘である「對鷗荘」におうそうも橋場の渡しの西岸にありました。

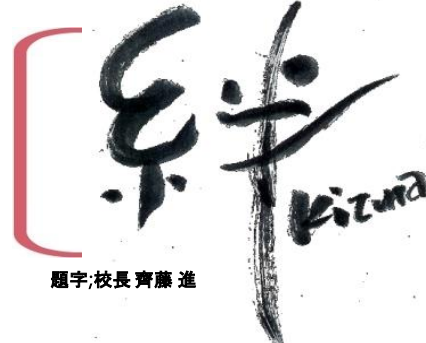
反対に隅田川で一番最近まで利用されていた渡しが「汐入の渡し」です。南千住地域には大きな紡績工場がありました。現・南千住八丁目には「東京紡績橋場工場」がありました。東京紡績は尼崎紡績と合併し、大日本紡績として時を経て現在のユニチカへとなりました。そして対岸には「鐘淵かねがらみ紡績会社」がありました。そうです、あの「カネボウ」です。汐入の渡しは、1967(昭和42)年まで、汐入と対岸の鐘淵紡績会社を結び、工員さんたちの通勤用として運行されていました。千住は、明治から昭和にかけて、近代工業発展の地でもあり、日本の大きな紡績会社にとっては、そのスタートの地でもあったのです。

### 南千住の交通と産業 No.4 『隅田川の渡しと紡績工場』

隅田川には江戸時代から多くの「渡し」がありました。徳川家康が江戸に入ってから、江戸の町は大きく発展しました。市街地を南北に分断する隅田川でしたが、防備上の理由から橋を架けることは制限されていました。そこで人々が利用したのが「渡し」です。特に南千住地域にはたくさんありました。下流から現・白髭橋のあたりに「橋場の渡し」、水神大橋あたりの「水神の渡し」、汐入大橋には「汐入の渡し」、そして千住大橋架橋とともに姿を消したとされる「渡裸」の渡しと続きます。

どの渡しも時代を経て近くに橋ができるとその役割を終えました。その中で「橋場の渡し」は記録に残る隅田川の渡しとしては最も古い渡しで、奥州、総州への古道があり、伊勢物語で主人公の在原業平が渡ったのもこの渡しとされています。また、源頼朝が挙兵してこの地に入る際に、歴史上隅田川に最初に架橋した「船橋」もこの場所とされ、「橋場」という名が残ったとも伝えられています。橋場は風流な場所とされ、大名や豪商、有名な料亭などもあったといわれています。特に著名な「三条実美」の別荘である「對鷗荘」におうそうも橋場の渡しの西岸にありました。

隅田川最後の渡し 汐入の渡し



題字:校長 齊藤 進



学校だより  
平成30年9月  
第87号  
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

## ほめ言葉シャワーと承認のコップ

校長 齊藤 進



皆さんは承認のコップを知っていますか？人は誰もが心の中に2つのコップを持っているそうです。一つは「自己承認のコップ」もう一つは「他者承認のコップ」です。

自己承認のコップとは自分自身を愛し、認めることで、他者承認のコップとは周囲の人たちを愛し、認めることができるというものです。

人は自己承認のコップが満たされて初めてその外側にある「他者承認のコップ」に水を満たすことができると言います。自分自身を愛し、認めること、そして初めて周囲の人たちを愛し、認めることができるというものです。

人は誰もが「誰かから認められたい」との願いをもっています。自分自身で自己承認のコップに水を満たすことは困難であると言われ周囲の人から認められることによって自信をもち自らのコップを満たすことができます。

9月8日に行われた道徳地区公開講座で2学年が「ほめ言葉シャワー、人の良いところを見つけよう」のテーマで授業を行いました。生徒同士の良さを互いに見つけ、伝え合う授業です。生徒は皆、他の生徒から良さを伝えられることで自分でも気づかなかった良さを知ることができたようです。「人をほめていると自分も気分がよかった」「ほめてもらうと嬉しい、心が和んだ」「もっと人の良いところをたくさん見つけてほめたい」などの感想も聞かれ、授業後には誰もが満足感を味わうことができたようです。

子供は自分ではなかなか水を満たすことはできないと言われています。親も含め私たち大人がコップに水を満たす役割が求められます。日常生活の中で「手伝いをしてくれてありがとう」「部活頑張ったね」「こういうところがあなたの良いところ」など言葉でお子さんの良さを伝えてほしいと思います。学校でも生徒が互いに良さを認め合うことができれば、いじめなどがなくなり皆が幸せで心豊かに暮らせるはずです。

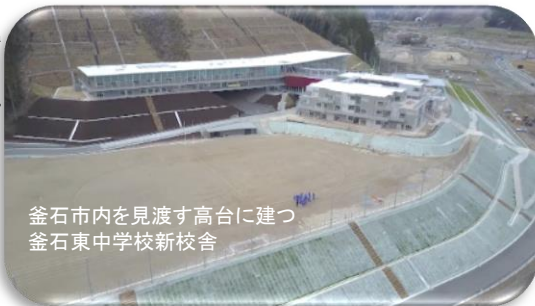
人は誰もが必ず良さをもちます。自分には良いところなど何もない、自分はダメな人間なんだ、などということは絶対にありません。「ほめ言葉シャワーと承認のコップ」を常に心にとどめ、自分のコップと他人のコップに水を満たすことができる人になってください。



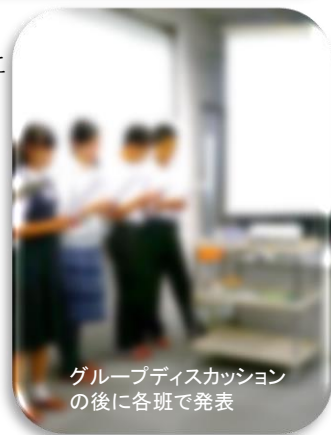
## 荒川区中学生被災地派遣

今年も荒川区中学校防災部による釜石市などの被災地訪問が行われました。南千住二中の代表として参加したのは、〇〇〇〇さん(2-3)と〇〇〇〇くん(2-4)の2年生2名です。8月1日・2日の2日間にわたり、宮城県南三陸町や岩手県釜石市の復興のようすを見学したり、釜石東中学校の生徒から当時の体験談を聞いて、災害時の避難経路などについてグループディスカッションを行いました。初日に訪れた南三陸町旧防災対策庁舎は、鉄骨だけが残されたままで、その姿は衝撃的で、震災の記憶として心に刻まれました。津波が迫る中、最後まで避難を呼びかけた女性職員をはじめ多くの亡くなった方々へ献花し、ご冥福を祈るとともに、万一の時、迅速で確実に避難活動を行うことを心に誓いました。釜石東中学校では、震災から6年経った今年4月に新校舎が完成していました。海拔15~26mの高台に建つ校舎は、緊急時の避難所としての役割をもち、敷地斜面には8カ所の避難階段が設けられていました。被災当時の先生からは、体験談とともに「当たり前前の生活」の有りがたさ、大切さを教えていただきました。「避難して、100回津波が来なくても、101回目も必ず逃げて！」という教訓に基づいた防災教育が行われ、「自分の命は自分で守る」を目標に、「その時にできる最善をつくす」ために、日頃から真剣に防災訓練に取り組んでいました。

被災地を訪れ、震災の悲惨さを実感するとともに、震災の教訓を未来に伝えていき、そして、「今私たちにできること」を考え、さらに防災について意識を高めていく決意を新たにしました。



釜石市内を見渡す高台に建つ釜石東中学校新校舎



グループディスカッションの後に各班で発表

## JRC 三首都交流会・都トレセン



三首都交流会では、色々な体験をしました。

南千住二中が加盟するJRC(青少年赤十字)において、夏休みに2つの教育プログラムが行われました。

7月23日(月)から7月28日(土)までの6日間に今年も北京で開催されたのが三首都交流会です。これは東京(日本)、ソウル(韓国)、北京(中国)三都市の中学生代表が集まり、活動を報告したり、交流を深める事業です。南千住二中からは、〇〇〇さん(2-1)が代表に選ばれ参加しました。今年の会場は東京。初日のウェルカムパーティーから参加した皆さんとの交流がはじまり、グループに分かれて東京都内を散策したり、ボランティア活動で配布するパン作りなどを通して、さらに交流を深めることができました。各国の文化の紹介や活動内容の報告などを通して互いの国や文化を理解していきました。また、各国の伝統の遊びを体験したり、参加者全員に揃いの文具類なども配られ、参加者に友情の絆が生まれていきました。たとえ言葉が通じなくても、お互いのことを伝えようとする気持ちが大切であることに気づき、お互いを理解し協力できることを確かめ合う有意義な6日間でした。

8月1日(水)から4日(土)には、高尾の森わくわくビレッジで、東京都のJRCTトレセンが行われました。トレセンは、JRCのリーダーを養成する学習活動で、今年も、〇〇〇〇くん(1-2)と〇〇〇〇くん(2-4)の2人が荒川区の代表として参加しました。4日間にわたり、障がい者や妊婦の体験、目隠しをしてお互いに声を掛けながら歩くフィールドワーク、救命救急訓練などを通して、相手の立場に立って考え、自分のできることで、他の人の役に立ち、自分を活かす知識や技術、行動などを学びました。

## PTAソフトボール大会

8月26日(日)に荒川球場で、荒川区内の中学校10校対抗によるPTAソフトボール大会が行われました。本大会に南千住二中は6年前から参加し、強豪チームとして毎年のように1、2位を争ってきました。昨年は優勝候補の三中を制して、初優勝！今年は例年のない猛暑が続き、この日も最高気温36℃という強烈な日差しの降り注ぐ中、連勝を目指して、保護者、教職員が選手として20名以上集まりました。試合は、5校ずつの2リーグ制によるトーナメント戦で行われました。南千住二中はBリーグで見事1位を獲得し、Aリーグ1位の三中と決勝で対戦しました。保護者の皆さんからは、暑さを吹き飛ばすほどのヒットと好プレーが続き、応援にいらした皆さんからの熱い声援にも包まれ、グラウンドは大いに盛り上がりました。選手皆さんの善戦むなく、今年は準優勝を帰することとなりましたが、日頃の絆がチームプレーとなってひととき光る印象的な試合でした。表彰式では、副賞にテント一張りが授与されました。昨年のテントに続き、運動会やレスキュー部の訓練などで活用させていただきます。選手の皆さん、お疲れさまでした。保護者の皆さん、応援ありがとうございました。



準優勝  
おめでとうございます！

### 《実用英語検定》

- 2級 〇〇〇〇くん(3-3)
- 準2級 〇〇〇〇くん(3-1)、〇〇〇〇さん(2-3)
- 3級 〇〇〇〇くん(3-2)、〇〇〇〇くん(3-2)、〇〇〇〇くん(3-2)、〇〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-2)、〇〇〇〇くん(3-4)、〇〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-2)、〇〇〇〇くん(2-4)
- 4級 〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-3)、〇〇〇〇さん(2-1)、〇〇〇くん(2-2)、〇〇〇〇くん(2-3)、〇〇〇〇くん(2-4)、〇〇〇〇さん(1-1)
- 5級 〇〇〇〇さん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-4)

### 《日本漢字能力検定》

- 準2級 〇〇〇〇くん(3-1)、〇〇〇〇くん(3-3)

### 《実用数学検定》

- 準2級 〇〇〇〇くん(3-4)
- 3級 〇〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-1)、〇〇〇〇さん(3-2)
- 4級 〇〇〇〇くん(2-4)、〇〇〇〇くん(2-4)、〇〇〇〇くん(1-1)
- 5級 〇〇〇〇くん(2-4)
- 6級 〇〇〇〇さん(1-1)、〇〇〇〇さん(1-2)、〇〇〇〇さん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇〇さん(1-3)、〇〇〇〇さん(1-4)



漢検準2級取得の〇〇くん

漢検準2級取得の〇〇くん

### 《パソコン部》

#### 第18回毎日パソコン入力コンクール6月大会 第6部和文B高校生部門入賞

- 〇〇〇〇くん(3-1)、〇〇〇〇くん(3-2)、〇〇〇〇くん(3-2)

#### 第5部和文A中学生部門入賞

- 〇〇〇〇くん(3-3)、〇〇〇〇さん(3-4)、〇〇〇〇くん(3-4)、〇〇〇〇くん(2-1)、〇〇〇〇くん(2-3)、〇〇〇くん(2-4)、〇〇〇〇くん(2-4)

#### 第2部ローマ字部門入賞

- 〇〇〇くん(1-1)、〇〇〇くん(1-2)、〇〇〇〇さん(1-2)、〇〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇〇さん(1-3)、〇〇〇〇くん(1-4)、〇〇〇〇くん(1-4)、〇〇〇〇くん(1-4)、〇〇〇〇くん(1-4)、〇〇〇〇さん(1-4)



パソコン部の皆さん

## 1年生 清里移動教室

9月12日(水)～14日(金)の3日間、「清里移動教室」が行われました。中学生になってはじめての宿泊行事に、皆心を弾ませ、笑顔で元気よく運転手さん、ガイドさんに挨拶をしてバスに乗り込みました。今年のスローガンは『成長』。「清里の雄大な自然の中で、心を一つに支え合い、学び合い、楽しんで、全員が笑顔で帰ってくる」という願いが込められています。

最初の目的地・清泉寮に到着し、芝生の上でお弁当を食べた後、美し森オリエンテーリングに出発しました。班ごとに順番にスタートし、美し森山の山頂にある展望台を目指すコースで、途中地図に示された“南千住二中オリジナルポスト”を探して、ポストに書かれたクイズに答えて、記録していきました。前日に降った雨で道がぬかるんでいたり、途中道に迷う班もありましたが、**お互いを励ましあいながら、全班が制限時間内に到着**できました。ゴールの美し森展望台はあいにくの霧でしたがおよそ1時間半の山歩きあとの冷たいソフトクリームは格別でした。夜は、体育館や宿舎の周辺を使って、6人のレンジャーさんが、写真や実物を使って、八ヶ岳や清里の自然とふれ合う会を開いてくれました。天然記念物のヤマネの剥製やニホンカモシカの角を触ったり、色々な植物や昆虫の標本を見るなどして、楽しく学習できました。

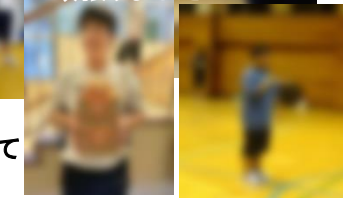
2日目は、リフトを使って車山の山頂を目指しました。山頂は厚い雲に覆われていて、数m先も見えませんが、皆はじめての雲の中の体験に食べたり？、触ったり？して大喜び。全員で写真を撮影した後、中腹の車山肩に向かって下山しました。5分も下ると雲が晴れ、眼下に美しい霧ヶ峰高原の景色が広がりました。お弁当の休憩を挟んで、いよいよ今回の最大の難所、急な下り坂が続く岩肌伝いに八島湿原ビジターセンターを目指しました。およそ1時間30分スキの穂がふくらみ始めた初秋の山歩きを楽しみ、湿原の木道散策を終えて、ゴールのビジターセンターでは、ふたたびソフトクリームを堪能。疲れも見せず、笑顔が溢れました。宿舎に戻り、おいしいカレーを何度もおかわりした後、体育館で、レク係が2週間かけて用意した、風船割りゲームや借り物・風船運びリレー、そして、“だるまさんが転んだ”などの大レク大会で盛り上がりました。

**今回の清里移動教室では、各係、部屋ごとの活躍も素晴らしいものがありました。**各部屋では、荷物やアリーナ靴などがつねにきれいに整理されていました。班長、学習記録、美化保健、食事、入浴、レクの各係が時間通りに積極的に働きました。3日目の朝の宿舎清掃では、階段を雑巾で磨き上げる姿なども見られ、自主的に活動する様子に成長を感じました。退園式を済ませ、「笛吹川フルーツ公園」に向かい、アスレチックやお土産の購入などをして帰路につきました。

今年のスローガン通り、**1年生一人一人にとって、学年という集団にとって大きな成長を遂げた3日間でした。**



係の仕事も協力して頑張りました！



## フラチナ未来人財育成塾

三世代によるグループワーク



「プラチナ未来人財育成塾@二子玉川」に、南千住二中から**白石 華鈴さん(2-1)**が初参加しました。今回で6回目の開催となる育成塾は、“**未来のリーダー**”の育成を目指しています。今年は8月5日から9日の5日間にわたり、東京都市大学を会場に、産業界、研究・教育機関、行政の各分野を代表する講師から専門的分野の講義をうけるワークショップが行われました。また、シニア世代と大学生を交えた三世代が参加するディスカッションや二子玉川周辺のまちづくりを学ぶ「まち学習」などの体験も行い、エコロジーで、資源の心配がなく、老若男女が全員参加し、心もモノも豊かで、雇用がある「プラチナ社会」の実現に向けて、多世代で議論を深める機会となりました。

## 夏季防災訓練

毎年恒例となっているレスキュー部の**夏季防災訓練**が8月27日(月)に実施されました。今年は校舎の改修工事で使用できる教室が限られたため、救急救命講習会のみが行われました。参加した67人のレスキュー部員は、6、7人のグループに分かれ、人体モデルを使用した人工呼吸の仕方や心臓マッサージ、AEDを使った心室細動から正しい心臓のリズムに戻す救命法などについて学びました。また、今回は小児や乳児の人体モデルも使い、指で胸骨を圧迫する心臓マッサージ法も学びました。AEDは、駅や商業施設など人が数多く集まる場所に配置されており、突然の心臓発作で倒れたり、重大な事故に巻き込まれるなどの緊急時に、AEDを利用した応急手当で救われる命が数多くあります。今回の夏季防災訓練では、AEDの正しい操作方法を中心に異物除去、止血法などの訓練を行いました。このような機会を通して**訓練を重ね、万一のとき、いち早く救急救命に取り組み、人を助けられる中学生**を目指しています。



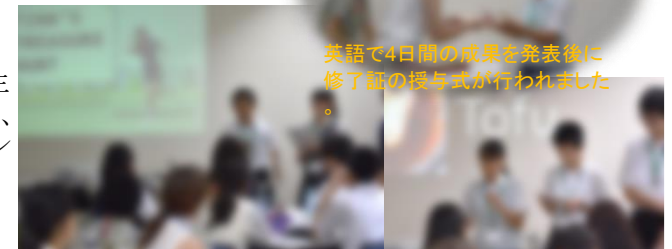
AEDの正しい使い方や人工呼吸、心臓マッサージなどの講習を受けました。



## 中学生ワールドスクール

8月3日(水)～6日(月)の4日間、秋田県の国際教養大学で、荒川区中学校ワールドスクールが開催されました。これは、荒川区と秋田市が提携して、小中学校で学んだ英語力を使って、大学生や留学生たちとの英会話レッスンなどを通して、実際に英語を話し活用するスキルを高めることを目的に28年度から行われています。3年目となる今年は、**2年生の〇〇〇〇さん(2組)、〇〇〇〇さん(3組)、〇〇〇〇さん(3組)と3年生の〇〇〇〇さん(4組)**の4名が南千住二中から参加。1日目は、秋田市内を観光したり、秋田市役所を表敬訪問した後、秋田を代表する祭りのひとつ竿灯まつりを見学するなどしました。2日目からは、生徒5名に大学生や留学生3名のグループに分かれ、“英語で説明してみよう”“50分で発音記号をマスター”“一言添えて広がる英会話”“留学生にインタビューしよう”などの10のアクティビティを体験しました。4日目には、各班で決めたテーマに沿って、パワーポイントなどを使い、すべて英語でプレゼンテーションを実施。4日間の成果を発表しました。

秋田の自然や文化・芸術に親しみ、大学生や留学生との英語での授業や交流を通して、英語を活用したコミュニケーションやプレゼンテーションスキルを育み、英語への興味・関心をさらに高めた4日間でした。国際教養大学の教員並びに学生ボランティアの皆さん、ありがとうございました。



英語で4日間の成果を発表後に修了証の授与式が行われました。

## 清里3日間の思い出



## 中学生科学コンテスト



東京都内の中学校に在籍する中学1、2年生が3人1組でチームを作り、理科・数学などの能力を競い合う「中学生科学コンテスト」が8月26日(日)に、都立富士高等学校附属中学校と都立立川国際中等教育学校の2校を会場として開催されました。今年は都内の国公立中学校から188チームが参加。3年目となる今年は南千住二中から1年生の2チームが出場しました。

1チーム目は、〇〇〇くん(1-1)、〇〇〇くん(1-3)、〇〇〇くん(1-4)の3人。小学校から仲の良い友人同士で理数の難問に挑戦しました。2チーム目は、〇〇〇〇くんと〇〇〇〇くと〇〇〇〇くんの3人で、1年4組の同じクラスで強力なタッグを組みました。当日は、理数の複数分野から出題される筆記競技に70分間、ものづくりとコミュニケーション能力を駆使して課題に取り組む実技競技に90分間取り組みました。初めて出会う難しい問題に、チームで作戦を立てて協力して挑戦。筆記競技では、圧力の問題など全5問が出題されました。それぞれが得意分野の問題を担当したり、難問には3人で力を合わせて取り組みました。実技競技は、ボール紙を使って正多角形を組み合わせて多面体を作り、規定の斜面から転がして進んだ距離を競うものでした。2チームは共に、サッカーボールを制作。チームで協力して六角形20個と五角形12個を正確に作りました。すこし変形しましたがよく転がるボールと

球体に近い美しいボールなどができました。2チームともに、競技に楽しく取り組むことができ、来年も同じメンバーで挑戦する意欲に燃えています。

夏休み最後の日曜日、個々の持てる力を試して、科学に対する興味・関心をさらに深める機会となりました。



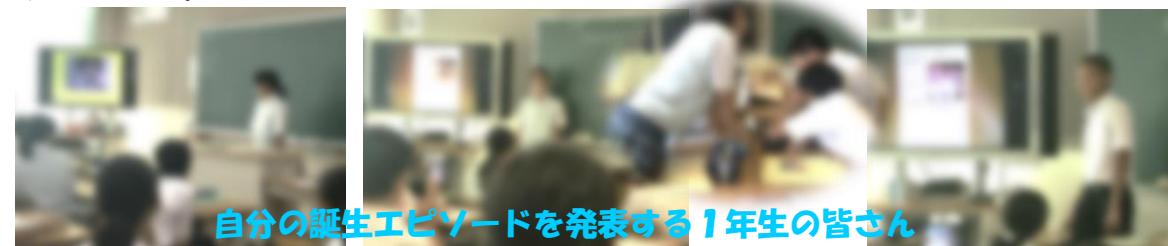
## 道徳授業地区公開講座

9月8日(土)の授業公開日に道徳授業地区公開講座が行われました。今回の授業テーマは、1年生「生命尊重」、2年生「ほめシャワー～人のよいところを見つけよう～」、3年生「希望と勇気、克己と強い意志」でした。1年生は、夏休みの宿題「自分の誕生エピソード」を班の中で一人ずつ発表しました。さらに各班の代表がクラスで電子黒板を使って発表しました。それぞれの誕生エピソードを聞き、命の尊さについて考え、人が生まれて育つことの素晴らしさと大変さなどを学びました。

2年生は、自分の個性について、思いつくことを10個書かせて、自分の中に必ず良いところがあることを探しました。次に「ほめシャワー」を浴びる人を決めて、班ごとに決まった人に対して、良いところをどんどん探し、短冊に書いて発表しました。ほめシャワーをもらった人からは嬉しかった、心が和んだなどの感想が聞かれ、参加した人からも、「人をほめていると自分も気分が良かった、声を出してほめると、もっと仲良くなれる気がする」、などの感想が聞かれ、ほめシャワーを通して、自分自身の個性を自覚し自信を持つこと、そして他の個性を尊重し、その良さを認め、伝えることの大切さに気づきました。

3年生は荒川区道徳教育郷土資料集より、人工衛星「輝夕(きせき)」が起こした奇跡について読み、映像を見て、荒川区の高専に通う地元の高校生たちが高額な費用、超精密な部品作り、ミスが許されない太陽電池パネルの接着など数々の困難や失敗を乗り越えて、つねに希望をもって目標達成を目指した高校生たちの心情をとらえ、受験を前に、困難や失敗を乗り越える方法を考え、着実にやり遂げる意欲と態度を育みました。理想を求めて生きる姿を通して、自己を振り返り、自分の生き方について考えました。

授業後の協議会では、PTAや評議員の皆さんと教員で活発な意見交換が行われ、中学生の道徳教育の果たす役割への重要性和期待を改めて確認させていただきました。ご来校いただきました皆さま、ありがとうございました。



自分の誕生エピソードを発表する1年生の皆さん

## JRC ペットボトルキャップ集め



ペットボトルキャップを渡すJRCの皆さん

南千住二中は、JRC(Junior Red Cross = 青少年赤十字)に全校加盟しており、地域清掃やボランティア活動などに取り組んでいます。ペットボトルキャップ集めは、このJRC委員会の活動の一環で、JRCに加入した当初から7年間続けています。各ご家庭や地域の皆様のご協力が集められたペットボトルキャップは半年に一度回収され、計量した後、リサイクル業者へ買い取っていただき、その後「NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付され、途上国の子どもたちの支援活動に利用されます。

8月に行われた回収では、その数は56kg、24,080個に上りました。これは、ポリオ(小児まひ)ワクチンおよそ28人分となり、この7年間の累計ではおよそ182人分に上り、貧困に苦しむ子どもたちの元へ届けられました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

## JRC 緊急支援募金活動

平成30年7月、台風7号の影響により、九州から西日本にかけて広い範囲で記録的な大雨が降り、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生。死者200人を超える甚大な被害となりました。9月には、北海道胆振地方を震源として、北海道では観測史上初となる最大震度7の大地震が発生。広い範囲で土砂崩れや大規模な停電などが起こり、復旧作業にはかなりの時間を要すと見られています。

この報道を受け、2学期に入りJRC委員会がすぐに集められ、委員長の〇〇〇さん(3-1)を中心に被災者支援について話し合い、緊急支援として9月10日(月)～14日(金)に募金活動を行うことになりました。生徒やご家族の協力と善意で4日間に集まった募金は、JRC委員会によって荒川南千住五郵便局から日本赤十字社へ災害義援金として送られました。

今後、被災地の復興や被災者支援に役立てられます。皆さまのご協力、ありがとうございました。



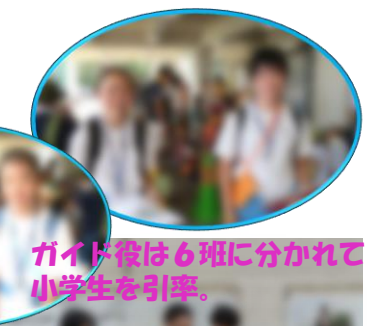
募金活動を行う3年生

## わくわく街歩き探検隊

南千住二中生がボランティアガイドとして地域の史跡・文化財の歴史や言い伝えなどを紹介する「わくわく街歩き探検隊」が9月9日(日)に行われました。今年は14人がガイド役を務め、小学生と一緒に、二瑞小からスタートして、回向院、延命寺、千住火力発電所跡(南千住二中)、山王清兵衛の祠、日枝神社、素盞雄神社、円通寺を巡り、二瑞小へ戻ってくるコースを6班に分かれて回り、わかりやすく丁寧に説明をしました。クイズを加えたり、史跡にまつわる物語を交えるなどして趣向をこらした説明は、「楽しい!面白い」と小学生に大好評でした。

この日街歩きを楽しんだ小学生にとって、これまで何気なく毎日通り過ぎていた景色が、その長い歴史などに触れて特別に輝くものになり、南千住の街をさらに好きになったことでしょう。

ボランティアガイドを務めた皆さん、お疲れさまでした。



ガイド役は6班に分かれて小学生を引率。



南千住周辺の史跡や寺社を案内。